令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
	①	②	③	⑤						⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑥	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑥	⑦
1	エコ・スクール推進事業	環境政策課	児童・生徒が主体的に環境学習や環境保全活動に取り組む力を育むため、学校全体で地域とともに活動する学校を「エコ・スクール」として認定し、持続可能な社会の担い手の育成を図る。			○	○	○	○												6024	A	エコ・スクール認定校20校（見込み）を達成し、より多くの児童生徒にエコ・スクールに取り組んでもらえたため。	県基本構想実施計画において、エコ・スクール認定校20校/年以上を目標としており、多くの児童生徒にエコ・スクールに取り組んでもらう。	エコ・スクール認定校が18校から20校（見込み）へ増えたため。 （参考）令和2年度：5260名	20	A
2	幼児自然体験型環境学習事業	環境政策課	保育士や幼稚園教諭等の保育者を対象に、自然を活かした体験型の保育を推進するための実践型学習会を開催	○	○	○	○			50	C	参加者数が定員（目標）100名（20名×５会場）のうち、50名であったため。	講師と相談のうえ、グループワークに適した人数として各回20名を目標参加人数にしており、多く方に幼児自然体験型環境学習の重要性を理解し、実践してもらう。	学習会実施回数が１回増加したとともに、新型コロナウイルス感染状況が比較的落ち着いている時期に実施できたため。 （参考） 令和2年度：39名／4会場→令和3年度：50名／5会場	6	28	C	参加者数が定員（目標）60名（20名×3会場）のうち、28名であったため。	講師と相談のうえ、グループワークに適した人数として各回20名を目標参加人数にしており、多くの方に多様な幼児自然体験型環境学習プログラムを作成してもらう。	新型コロナウイルス感染状況が比較的落ち着いている時期に学習会を実施できたため。 （参考） 令和2年度：30名／3会場、プログラム：6個→令和3年度：28名／3会場、プログラム：6個	50	C	参加者数が定員（目標）100名（20名×５会場）のうち、50名であったため。	講師と相談のうえ、グループワークに適した人数として各回20名を目標参加人数にしており、幼児自然体験型環境学習に関心のある参加者同士の交流の場を設ける。	学習会実施回数が１回増加したとともに、新型コロナウイルス感染状況が比較的落ち着いている時期に実施できたため。 （参考） 令和2年度：39名／4会場→令和3年度：50名／5会場	6	B
3	びわ湖の日活動推進事業	環境政策課	びわ湖の日40周年を契機に、森・川・里・湖が織りなす多様な価値や「びわ活」を発信しながら、これまでの取組を振り返り、今を見つめなおし、これからを考え、行動するきっかけづくりを進める。			○	○		○												2314	A	以下のとおり、多くの方に琵琶湖と関わってもらえたため。 （参考） ・びわ湖の日40周年記念シンポジウム参加者数：432名（当日インターネット視聴者数含む） ・7月1日びわ湖の日トーク生配視当日聴者数：756名 ・びわ湖との約束絵手紙応募者数：238名 ・大学との連携講座受講申込者数：延べ450名 ・出前講座受講者数：438名	滋賀県環境基本条例第8条の趣旨に基づき、多くの方にびわ湖と関わってもらえるきっかけとなる場や機会をつくる。	「びわ湖の日」40周年に際して、複数の企画を実施したため。 （参考） 令和2年度：2082名	124	A
4	消費者教育支援事業	県民活動生活課	学校における消費者教育の指導者を支援するため、教員に対して消費者教育に関する研修機会等を提供し、学校現場における消費者教育の推進を図る。	○			○	○	○	－	C	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点等もあり、教員向け研修会に参加されていないため。		昨年度も同様に教員に対して、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点等もあり、教員向け研修会に参加されていないため。												－	A
5	消費者月間講演会事業	県民活動生活課	5月の消費者月間にあわせて消費者市民社会をテーマとした講演会を、県内の消費者団体と共催で実施する。			○	○														62	A	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、新たにオンラインも併用した形で講演会を実施できた。		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点のより、前年度は中止した。	1	A

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連															9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	①	⑧	⑨	⑩	⑥	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑯																⑰												
1	エコ・スクール推進事業	エコ・スクール認定校20校（見込み）を達成し、多くのエコ・スクールの取組をHPで紹介できたため。	県基本構想実施計画において、エコ・スクール認定校20校/年以上を目標としており、エコ・スクールの環境学習取組情報を周知していく。	エコ・スクール登録校が18校から20校（見込み）に増えたことにより、活動報告書の掲載数も増えたため。	—	—	A	エコ・スクール認定校20校（見込み）を達成し、学校と地域活動団体等との連携による環境学習取組が行われたため。	県基本構想実施計画において、エコ・スクール認定校20校/年以上を目標としており、学校と地域の連携による環境学習等を進めていく。	—	203	A	エコ・スクール認定校３校から取組成果を発表いただけたため。	エコ・スクール認定校における環境学習の更なる推進および県内のエコ・スクールの普及を目的に、しが環境教育研究協議会のプログラムの一環として、エコ・スクール発表会を開催し、3校程度から発表してもらう。	昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりエコ・スクール発表会が中止となったため、参加者数は0名。				○																								○								
2	幼児自然体験型環境学習事業	県HPで幼児自然体験型環境学習プログラムを掲載・周知できたため。	学習会で作成した幼児自然体験型環境学習プログラムを公開し、参加者だけでなく多くの方へプログラムの普及を図る。	昨年度と同数の幼児自然体験型環境学習プログラムを掲載できた。															○																								○			
3	びわ湖の日活動推進事業	関連事業・企画数が目標以上の応募があり、県ホームページで広く発信できたため。	滋賀県環境基本条例第8条の趣旨に基づき、びわ湖と関わるきっかけづくりを展開する。 課組織目標では、 びわ湖の日40周年関連事業・企画数:100事業・企画以上を挙げており、広くイベント等の情報発信を行う。	コロナ禍でも工夫してイベント等を実施いただいたため。 （参考） びわ湖の日関連イベントの掲載数 令和2年度:41件							2890	A	目標通り以下のことを実施できたため。 ・びわ湖の日40周年記念シンポジウム参加者数：432名（当日インターネット視聴者数含む）、 ・ワークショップ・ブース出展：６回（参加者数：延べ1,702名） ・環境保全啓発パンフレットを作成し、県内小中学生へ配布 ・DVDを作成し、県内全小学校等へ配布 ・テレビCMを90回放送 ・7月1日びわ湖の日トーク生配視当日聴者数：756名	滋賀県環境基本条例第8条の趣旨に基づき、びわ湖と関わるきっかけづくりを展開する。 課組織目標では、びわ湖の日40周年記念シンポジウムの開催（参加人数（インターネット視聴者数を含む）150人以上）、ワークショップ・ブース出展（4回以上）を掲げている。 併せて以下も実施。 ・環境保全啓発パンフレットを作成し、県内小中学生へ配布 ・多様なメディアによる普及啓発（DVDやテレビCMの放送）	―				○		○								○									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	消費者教育支援事業	県教育委員会等と協力して、環境の係わり方等の内容も含んだ家庭科で活用するワークシートを作成し、県内の小学校新5年生全員に配布することができたため。	小学校新5年生全員にワークシートを配付することを目標とする。	昨年度も小学校新5年生全員にワークシートを配付することができた。	－	－	A	県教育委員会等と協力して、環境の係わり方等の内容も含んだ家庭科で活用するワークシートを作成し、県内の小学校新5年生全員に配布することができたため。	小学校新5年生全員にワークシートを配付することを目標とする。	昨年度も小学校新5年生全員にワークシートを配付することができた。	－	A	県教育委員会等と協力して、環境の係わり方等の内容も含んだ家庭科で活用するワークシートを作成し、県内の小学校新5年生全員に配布することができたため。	小学校新5年生全員にワークシートを配付することを目標とする。	昨年度も小学校新5年生全員にワークシートを配付することができた。				○							○																				
5	消費者月間講演会事業	資料提供を通じて、本講座の周知を図った。		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点のより、前年度は中止した。															○							○																		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
6	エシカル消費推進事業	県民活動生活課	エシカル消費を、県民一人ひとりが自分ごととして捉え、日々の生活に定着させることを目的として、関係課等と連携を図り、エシカル消費啓発活動を実施する。				○		○																	1	A
7	新しいエネルギー社会づくり総合推進事業	CO_2ネットゼロ推進課	CO_2ネットゼロに関する施策の総合的な推進や新たなプロジェクトの誘発・組成を行うとともに、県民の参画や多様な主体との協働による取組の一層の強化を図る。			○	○		○												－	B	セミナーを開催し、CO_2ネットゼロ社会について考える機会の提供に繋げた。※3/29開催	滋賀県CO_2ネットゼロ社会づくり推進計画の方針に情報発信・交流の場の設置を掲げている。		－	B
8	CO_2ネットゼロ社会づくり学習支援事業	CO_2ネットゼロ推進課	学校や地域においてCO_2ネットゼロ社会の実現に向けた環境学習の推進を図るため、地球温暖化防止活動推進員等が学校や地域に出向き学習を進める。 ・県内実施校の「CO_2ネットゼロ社会づくり事業」：アドバイザー派遣　50回程度 ・地域団体による地球温暖化対策等の学習：アドバイザー派遣50回程度	○	○	○			○	100	A	予定していたCO2ネットゼロ学習講座100回を達成した。	しがCO_2ネットゼロムーブメントの推進への寄与	昨年度は新型コロナウイルス感染状況の拡大により60回程度の開催にとどまったが、今年度はそのような状況下でも出来る体制を整えたことで実施回数は増加した。	－	－	B	CO2ネットゼロ学習講座メニューとなる教材研究を都度実施している。	－	－	－	B	「教育しが」や広報誌の掲載、教員研修の場での講座メニュー紹介等を通し、情報を発信した。	－	－		
9	地球温暖化防止活動推進センター事業	CO_2ネットゼロ推進課	地球温暖化対策の普及啓発および地球温暖化防止活動推進員活動の支援を行う事業で、地域でCO_2ネットゼロ社会づくり出前講座等を実施する地球温暖化防止活動推進員の資質向上のための研修を行う。			○	○		○												－	B	夏休み期間の自由研究講座を開催し、親子で地球温暖化問題に関心を深める等の場づくりを行った。	－	－	－	B
10	節電・省エネ行動実践促進事業	CO_2ネットゼロ推進課	市町等と連携し環境イベントや公民館等で省エネ・節電提案会を開催し、各家庭に応じた省エネ対策を提案する「うちエコ診断」の実施や、パネル・実験器具を用いた啓発等を行い、家庭における省エネ・節電行動の定着・促進を図る。			○	○		○												100	A	家庭のエネルギー消費を診断する「うちエコ診断」について、予定件数100件の診断を達成したため。	しがCO_2ネットゼロムーブメントの推進への寄与	昨年度も同数の診断を実施。	―	B
11	しがCO_2ネットゼロ推進事業（次世代ワークショップ）	CO_2ネットゼロ推進課	次世代を担う若者（高校生～大学生）が、CO2 ネットゼロを自らの問題として捉え、個人や地域のレベルで身近なところからできる行動について意見交換する機会を設けるとともに、意見交換を通じて生まれたアイデアを発信することにより、県民のCO2 ネットゼロに向けた取組機運の向上を図る。	○		○			○	―	B	ワークショップを実施し、参加者のCO_2ネットゼロに対する理解に繋げた。一方で感染症の影響により、当初予定していた体験型のフィールドワークが実施できなかった。	しがCO_2ネットゼロムーブメントの推進への寄与	新規							―	B	ワークショップを実施し、参加者のCO_2ネットゼロに対する理解に繋げた。一方で感染症の影響により、当初予定していた体験型のフィールドワークが実施できなかった。	しがCO_2ネットゼロムーブメントの推進への寄与	新規		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
6	エシカル消費推進事業	県HPにエシカル消費啓発冊子の電子データおよび関連HPのURLを掲載した。		昨年度まで当HPを作成していなかった。							1,684	A	滋賀県消費生活センター主催の「消費生活フェスタ」でのパネル展示および草津市主催の「草津市地球冷やしたい推進フェア」において、啓発を行った。 　また、滋賀県オリジナルのエシカル消費啓発冊子を関係課等と連携し作成した。 （新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、消費生活フェスタでのブース出展は中止）		昨年度は滋賀グリーン活動ネットワークとの協働提案事業にて実施：キャンペーン参加者数15,322人												○							○					○		○			○		
7	新しいエネルギー社会づくり総合推進事業	セミナーにおいて、滋賀県におけるCO_2ネットゼロ社会づくりについて説明した。※3/29開催	滋賀県CO_2ネットゼロ社会づくり推進計画の方針に情報発信・交流の場の設置を掲げている。								―	B	セミナーにおいて、再生可能エネルギーの自家消費につながる事例の紹介をを行った。※3/29開催	滋賀県CO_2ネットゼロ社会づくり推進計画の方針で情報発信・交流の場の設置を掲げている。							○		○		○		○											○	○	○				
8	CO_2ネットゼロ社会づくり学習支援事業										－	B	各講座において、数多くある学習メニューかその場に適した題材を選択し、効果的な学習を実施した。	－	－												○											○	○	○				
9	地球温暖化防止活動推進センター事業	ウェブサイトやメールマガジンによる情報発信により県民への啓発・広報活動を行った。	－	－							－	B	イベントの開催や啓発冊子の更新など、普及啓発を行った。	－	－												○											○	○	○				
10	節電・省エネ行動実践促進事業	イベントや各市町の広報媒体等も利用しながら取組の周知をした。	―	―							－	B	イベントや自治体の集会等も利用しながら診断を実施した。	―	―												○											○	○	○				
11	しがCO_2ネットゼロ推進事業（次世代ワークショップ）										―	B	ワークショップを実施し、参加者のCO_2ネットゼロに対する理解に繋げた。一方で感染症の影響により、当初予定していた体験型のフィールドワークが実施できなかった。	しがCO_2ネットゼロムーブメントの推進への寄与	新規												○											○	○	○				

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
12	くらしの情報セミナー	消費生活センター	環境問題を含む、消費生活に関するタイムリーな情報を提供する講座を開催する。			○	○														－	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかったため。			－	C
13	親子くらしの体験セミナー	消費生活センター	夏休み期間中に親子を対象として、消費生活への関心を深めてもらえるよう、体験型のセミナーを開催する。			○	○														－	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかったため。			－	C
14	政策研修センター研修	政策研修センター	主任主事・主任技師級昇任者および新規採用職員に対し、琵琶湖環境の課題や取組等を理解させる。	○						327	B	各研修を計画どおりに実施するとともに、受講者アンケートで一定の評価を得られたため。															
15	滋賀県中学生水の作文コンクール	琵琶湖保全再生課	「水の日」および「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め理解を深める。	○		○			○	245	B	245編の応募があり、優秀作品は新聞（京都新聞）へ掲載された。	作文コンクールへの応募者数。	昨年度は156編の応募があった。	－						245	B	245編の応募があり、優秀作品は新聞（京都新聞）へ掲載された。	作文コンクールへの応募者数。	昨年度は156編の応募があった。	－	
16	早崎内湖再生事業	琵琶湖保全再生課	早崎ビオトープには数多くの生物が生息しており、環境学習（生物観察会）の場として、自然環境の大切さを考えるきっかけとして活用する。		○	○				－					3	100	B	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により冬の観察会を実施することはできなかったが、夏の観察会には多数の応募があり、地曳網体験など新たな体験を提供し、好評であった。また、早崎内湖再生20周年記念写真展を開催した。	委託業務にて年2回の観察会の実施を積算している。	昨年度同様に冬の観察会を行うことができず、秋の観察会については20周年記念写真展を実施したことから、開催しなかった。 昨年度実績：3回、延べ61人	100	B	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により冬の観察会を実施することはできなかったが、夏の観察会には多数の応募があり、地曳網体験など新たな体験を提供し、好評であった。また、早崎内湖再生20周年記念写真展を開催した。	委託業務にて年2回の観察会の実施を積算している。	昨年度同様に冬の観察会を行うことができず、秋の観察会については20周年記念写真展を実施したことから、開催しなかった。 昨年度実績：3回、延べ61人	－	
17	びわこルールキッズ事業	琵琶湖保全再生課	外来魚のノーリリースに協力してもらえる小中学生を募集する。琵琶湖の生態系の現状を知ってもらい、環境問題への意識の啓発と、ノーリリースの周知・定着を図る。			○			○	－					－						265	C	事業への参加者数が少なかったため	事業参加者数の、過去の5か年の実績平均が561人であった	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、募集を県内の方に絞り、参加登録会を兼ねた釣り大会の開催も見送ったため、参加者数は少なかった。昨年度は165人	－	

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
12	くらしの情報セミナー	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかったため。																									○																		
13	親子くらしの体験セミナー	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかったため。																									○																		
14	政策研修センター研修																																○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	滋賀県中学生水の作文コンクール				－						245	B	245編の応募があり、優秀作品は新聞（京都新聞）へ掲載された。	作文コンクールへの応募者数。	昨年度は156編の応募があった。				○		○								○													○	○	○		
16	早崎内湖再生事業				－						－																		○				○		○				○				○	○		
17	びわこルールキッズ事業				－						265	A	事業への参加者数が少なかったが、令和3年度はメディアからの取材の申し入れが3件あり、広報啓発は大いにできた	過去の5か年の実績平均が561人であった	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、募集を県内の方に絞り、参加登録会を兼ねた釣り大会の開催も見送ったため、参加者数は少なかった。昨年度は165人											○		○	○		○		○	○						○	○		○

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
18	外来魚釣り上げ名人事業	琵琶湖保全再生課	年間を通じた外来魚駆除釣り事業。外来魚の釣り上げによる駆除をライフスタイルに取り入れて釣り上げ「名人」にチャレンジいただく。継続して活動する釣り人を応援し、外来魚のさらなる駆除とノーリリースの定着を図る。	○		○			○	47	A	概ね実績相当の事業参加者数（個人数、団体数の合算）であったが、釣り指導人材の育成・確保も目指しており、この観点では、複数の釣り名人と繋がれている	事業参加者数の、過去の5か年の実績平均が59人・団体であった	参加者の高齢化や、釣りに行く機会が減った等の理由により減少。昨年度は49人・団体が参加	－						47	B	概ね実績相当の事業参加者数（個人数、団体数の合算）であったため	事業参加者数の、過去の5か年の実績平均が59人・団体であった	参加者の高齢化や、釣りに行く機会が減った等の理由により減少。昨年度は49人・団体が参加	－	
19	びわこルールキッズ釣り大会（外来魚駆除釣り大会）	琵琶湖保全再生課	琵琶湖の生態系の現状を知ってもらい、環境問題の意識の啓発と、ノーリリースの周知定着を図る。併せて「びわこルールキッズ」登録会を実施する。			○				－					－						－	C	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を見送ったため、実績なし	－	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を見送ったため、実績なし	－	
20	「琵琶湖は今」（びわ湖まちかどむらかど環境塾事業）	琵琶湖保全再生課	琵琶湖の現状や課題、さらには私たちの暮らしと琵琶湖のつながりについて考え、琵琶湖を守る行動へと高めあう場として、環境塾（出前講座）を開催する			○				－					－						363	B	年間10回の開催を目標としているため。	－	【増減理由】 MLGs策定等 【昨年度実績】 回数：3回 人数：60人	－	
21	エコツーリズム推進支援事業	琵琶湖保全再生課	琵琶湖保全再生計画で掲げられている“琵琶湖と人との共生”の実現のため、滋賀ならではのエコツーリズムを推進する。				○		○	－					－						－					52	C
22	おもしろ下物ビオトープ水辺のにぎわい創生事業	琵琶湖保全再生課	下物ビオトープでヨシ帯に住む生き物を観察することで、琵琶湖におけるヨシ帯の機能を学習する。			○				－					－						15	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、観察会を1回は中止したが、その後感染対策をとったうえで開催することができた。	過去4年間の実績平均が約20人であった。	減少理由：参加予定人数は昨年度並みであったが、当日キャンセルが多かった。 昨年度実績：26	－	
23	琵琶湖サポーターズ・ネットワーク	琵琶湖保全再生課	琵琶湖の保全再生と活用との好循環の推進に向け、多様な主体のネットワークによる琵琶湖の活用（ワイズユース）や保全再生への参画を推進する。			○	○	○		－					－						70	B	第2回交流フォーラムを開催したところ、加盟団体をはじめ、多くの方に参加いただいた。	交流フォーラム参加者数	昨年度開催なし	23	B
24	マザーレイクゴールズ（MLGs）推進事業	琵琶湖保全再生課	地域における多様な活動が自発的に創出され、琵琶湖流域の自然環境やそれを取り巻く暮らしの改善、持続可能な社会につながるよう、琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ（MLGs）を推進し、ワークショップ等を実施する。	○	○	○	○		○	1314	A	目標10回のところ、34回開催した。	ワークショップの年間開催数10回	－	34	1314	A	目標10回のところ、34回開催した。	ワークショップの年間開催数10回	－	1314	A	目標10回のところ、34回開催した。	ワークショップの年間開催数10回	－	34	A
25	ごみゼロしが推進事業	循環社会推進課	さらなるごみ減量や温室効果ガスをはじめとする環境負荷低減に向けて、事業者、団体および市町等と連携しながら、買い物ごみおよび食品ロスの削減やグリーン購入の推進に係る普及啓発等を行い、県民や事業者の取組を促進			○		○	○												—	B	「買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会」を2回開催 環境に優しい買い物キャンペーンの一斉啓発活動の実施。		昨年度 「買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会」を2回開催 環境に優しい買い物キャンペーンの一斉啓発活動の実施。		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
18	外来魚釣り上げ名人事業				－						47	B	概ね実績相当の事業参加者数（個人数、団体数の合算）であったため	事業参加者数の、過去の5か年の実績平均が59人・団体であった	参加者の高齢化や、釣りに行く機会が減った等の理由により減少。昨年度は49人・団体が参加											○		○	○		○		○	○							○	○		○
19	びわこルールキッズ釣り大会（外来魚駆除釣り大会）				－						－															○		○	○		○		○	○							○	○		○
20	「琵琶湖は今」（びわ湖まちかどむらかど環境塾事業）				－						－									○								○													○			
21	エコツーリズム推進支援事業	更新が十分にできなかったため。	更新回数	昨年度更新回数：6回	－						－	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止としたため、実績なし。	エコツーリズム推進ネットワーク形成会議の開催。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止としたため、実績なし。											○		○	○				○	○		○	○			○	○	○	○	
22	おもしろ下物ビオトープ水辺のにぎわい創生事業				－						－																		○					○	○							○	○		○
23	琵琶湖サポーターズ・ネットワーク	メールマガジンにより、加盟団体あて情報提供を行った。	メールマガジン配信数。	昨年度配信数：20回	108		B	令和3年度中に新たに5団体の加盟があった。	加盟団体数。	昨年度中15団体の加盟があった。	－															○					○							○	○	○		○
24	マザーレイクゴールズ（MLGs）推進事業	目標10回のところ、34回開催した。	ワークショップの年間開催数10回	－							1314	A	目標10回のところ、34回開催した。	ワークショップの年間開催数10回	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	ごみゼロしが推進事業				53	2	B	「買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会」を2回開催 環境に優しい買い物キャンペーンの一斉啓発活動の実施。		昨年度 「買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会」を2回開催 環境に優しい買い物キャンペーンの一斉啓発活動の実施。	220	B	プラスチックごみ・食品ロス削減啓発イベントの実施 ごみ3R出前講座5回実施（①永源寺中学校120名②鵜川ふれあいプラザ20名③日野エコライフ推進協議会21名④おおつ市民環境塾19名⑤おやじのたまり場40名）		昨年度 プラスチックごみ・食品ロス削減啓発イベントの実施 ごみ3R出前講座2回実施											○	○	○			○				○			○					

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
26	資源化情報等提供事業	循環社会推進課	県民や事業者に対して、3Rや廃棄物の適正処理に向けた自発的な取組を促すため、ごみ減量・資源化情報サイト「ごみゼロしが」などにより情報提供を行う。				○		○																	—	B
27	環境保全県民活動支援事業	循環社会推進課	琵琶湖をはじめとする湖国のすぐれた自然環境を保全し、かつ積極的に環境美化を図ることを目的として、県民、事業者等と一体となった環境美化運動を推進 ※淡海エコフォスター事業と環境美化活動推進事業について事業名を統合			○			○												172321	B	一年度24万人には届かなかったものの、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら展開し、昨年度より大幅に回復したため。	第五次滋賀県廃棄物処理計画の目標値である「『環境美化の日』を基準とした環境美化運動参加者数が計画期間累計で120万人 」より算出	各種媒体で幅広い世代に周知するとともに、新型コロナウイルス感染状況が比較的落ち着いている時期に実施できたため。 （参考） 令和2年度： 133812名		
28	自治振興交付金（エコライフ地域住民活動推進事業）	循環社会推進課	市町または住民組織が中心となって実施するごみ減量・リサイクル、水環境保全、地球温暖化防止などのライフスタイルの変革につながる実践活動および意識啓発活動に要する経費に対して市町へ交付金を交付する。					○	○																		
29	森林環境学習「やまのこ」事業	森林政策課	森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、学校教育の一環として、県内小学校4年生を対象に、森林体験交流施設やその周辺の森林を使った体験型の学習を展開する。	○		○				50	C	専任指導員・地域サポーターに対して研修を実施した。 （参考） 2回実施	琵琶湖森林づくり基本計画において、「やまのこ」事業をはじめとする森林環境学習を推進することとしている。	コロナの影響により研修実施回数が減ったため。 （参考） R2年度 3回　105人							13655	B	コロナ対策を講じたうえで、ほぼすべての学校において、「やまのこ」事業を実施することができたため。 （参考） 実施233校中止2校	琵琶湖森林づくり基本計画において、「やまのこ」事業をはじめとする森林環境学習を推進することとしている。	コロナ禍において「やまのこ」事業実施手法が確立されたため。 （参考） R2年度12,594人 中止26校		
30	「やまの健康」推進事業	森林政策課	「やまの健康」推進プロジェクトは、森林・林業・農山村（＝やま）を一体的に捉えて、やまの価値や魅力、地域資源を活かしたモノ・サービスなどによって「まち」と「やま」を含めた県民全体との関わりを創ることで、農山村の活性化を図る。			○	○														35	A	「やまの健康」に資するイベントを開催した。 （しが森林サービス産業創出セミナー）	琵琶湖森林づくり基本計画において、森林の整備・林業の振興と農山村の活性化の一体的な推進を行うこととしている。	※令和2年度実施なし	12	A
31	幼児里山保育推進事業	森林政策課	自然体験活動を積極的に取り入れている団体の社会的な認知や信頼性の向上を図るとともに、森林環境学習のすそ野を拡げるため、「しが自然保育認定制度」の認定を得て、森林での活動を増やそうとする団体に対し、必要な経費を助成するとともに、指導者等の実地研修や勉強会を開催する。	○		○				247	A	幼児里山保育指導者育成事業により、研修会等を実施した。	琵琶湖森林づくり基本計画において、自然を活用した幼児教育・保育を推進することとしている。	コロナ禍において、オンライン等も活用した研修を実施した。 （参考） R2年度239人							935	A	自然を活用した幼児教育・保育を積極的に行う団体を認定することにより、取組を推進した。 （参考） R3　5団体を認定 合計10団体	琵琶湖森林づくり基本計画において、自然を活用した幼児教育・保育を推進することとしている。	保育部局とも連携しPRを行ったため。 R2年度　435人		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
26	資源化情報等提供事業	ごみ減量・資源化情報サイト「ごみゼロしが」の定期更新		昨年度 ごみ減量・資源化情報サイト「ごみゼロしが」の定期更新							—	B	プラごみ、食ロス等の先進的な取組を行う事業者の取材、取組事例を紹介		昨年度 プラごみ、食ロス等の先進的な取組を行う事業者の取材、取組事例を紹介											○	○	○			○				○			○							
27	環境保全県民活動支援事業										172321	B	一年度24万人には届かなかったものの、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら展開し、昨年度より大幅に回復したため。	第五次滋賀県廃棄物処理計画の目標値である「『環境美化の日』を基準とした環境美化運動参加者数が計画期間累計で120万人 」より算出	各種媒体で幅広い世代に周知するとともに、新型コロナウイルス感染状況が比較的落ち着いている時期に実施できたため。 （参考） 令和2年度：133812名											○		○			○	○			○								○
28	自治振興交付金（エコライフ地域住民活動推進事業）				—	1	B	市町や自治会等が実施する事業に対して、交付要綱等に基づき、適正に交付した。		昨年度 市町や自治会等が実施する事業に対して、交付要綱等に基づき、適正に交付した。	—	B	市町や自治会等が実施する事業に対して、交付要綱等に基づき、適正に交付した。		昨年度 市町や自治会等が実施する事業に対して、交付要綱等に基づき、適正に交付した。											○	○	○			○				○			○							
29	森林環境学習「やまのこ」事業																		○							○	○			○					○		○					○		
30	「やまの健康」推進事業	SNS（Instagram）を通して、「やまの健康」に関する情報提供を行った。	琵琶湖森林づくり基本計画において、森林の整備・林業の振興と農山村の活性化の一体的な推進を行うこととしている。	積極的な情報提供を行った。 （参考） R2年度　1回																						○			○		○						○					○			○
31	幼児里山保育推進事業																		○							○	○			○					○		○					○		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
32	緑のダムづくり啓発活動（ﾌｸﾛｳ先生の森・守塾）	森林保全課	自助共助による防災対策の推進や、緑のダムづくりによる防災対策がいかに重要であるかを地域へ普及するとともに、林野公共事業の推進が本県の環境・防災対策上いかに重要な位置づけにあるかを県民に向け発信していく。 (1)がんばれﾌｸﾛｳ君塾・・次代を担う子どもたちへ！ 次代を担う子どもたちに、「緑のダムづくり」が環境や地域を守る上でいかに大切かを、啓発模型やクイズをつうじて学んでもらう。 (2)森・守講座・・・・・・地域での森づくりの推進のために！ 間伐の重要性や自助共助による防災対策の推進を啓発するとともに、地域において関心のある「緑のダムづくり」施策等を紹介する。	○		○	○		○	197	B	新型コロナウイルスの感染が懸念される状況下で、対策をしながら昨年度までと同等回数を開催できたため。	過去の5か年の実績平均が2.8回であった。	昨年度実績：2回							197	B	新型コロナウイルスの感染が懸念される状況下で、対策をしながら昨年度までと同等回数を開催できたため。	過去の5か年の実績平均が2.8回であった。	昨年度実績：2回	1	A
33	野生鳥獣保護対策事業（愛鳥モデル校愛鳥講演会）	自然環境保全課	子どもたちの鳥を大切にする心を育てることを目的として、愛鳥講演会、野鳥観察会を行う。			○			○												165	A	愛鳥モデル校6校のうち5校で講演会を実施した。	市町の推薦により県が指定する愛鳥モデル校で愛鳥講演会を実施する。	愛鳥モデル校の児童数の減少（参考）R2　175名→R3　165名		
34	鳥獣保護思想の普及啓発（愛鳥週間ポスターコンクールの実施）	自然環境保全課	子どもたちの鳥を大切にする心を育てることを目的として、愛鳥週間ポスターの募集・表彰を行う。			○			○												229	A	例年より応募作品数が多かったため。小学校1年～中学校3年までのほどんどの学年で応募点数10点を上回った。ただ、高校生	過去5年（H28～R2）の応募作品数平均114点	増減理由は不明。募集時期は昨年度より1週間程度早かった。（参考）R2　170点→R3　229点		
35	生物多様性しが戦略普及推進事業	自然環境保全課	生物多様性の保全と自然資源の持続的な利活用に取り組む事業者を認証することにより、生物多様性に取り組んでいる事業者の取組を「見える化」し、認証事業者の社会的な付加価値を増加させることで、社会経済活動における生物多様性の視点の浸透を図る。			○			○												101	A	2018年度の制度制定以来、様々な事業者に応募をいただいており、2021年度末には継続的な取組の実施も含めてこれまでの累計で101件を認証した。 今後、より一層生物多様性の取組を推進していくためのインセンティブを高めていく必要がある。	2050年度までの長期的な目標として累計500件を認証する（年間概ね15～16件）。	2021年度は、38件（新規8件、更新30件）を認証した。継続的な取組を行っている事業者の更新の認証が多かった。		
36	ラムサールびわっこ大使事業	自然環境保全課	県内小学生の中から「ラムサールびわっこ大使」を募集し、環境に関する交流の場等での発表機会を経験させることにより、環境保全活動の核となる次世代のリーダーを育成する。	○		○			○	9	A	9名に対し、事前学習会3回、県外派遣、交流会、報告会の予定していたプログラムを実施し、人材育成として達成できたため。	次世代リーダーの育成という目的のもと、人数を絞って実施している。学習では子ども同士の意見交換も行うため、指導者との相談し、8～10名程度が適当	議員からの要望を受け8名募集のところを10名程度の募集に変更したため R2　8名→R3　9名								21	B	令和3年度びわっこ大使の人数＋交流会に参加したOBOGの人数。OBOGからの参加申し込みに対し会場の定員が少なく、お断りすることがあったため。	これまでにびわっこ大使を経験した人数が令和3年度時点で72名。案内を出し、参加希望者全員が出席できるようにする。	交流会の開催が、コロナがまん延している時期で、人数制限を厳しくしたため昨年度よりは少ない人数での実施となった。（昨年度参加人数26名）		
37	外来生物防除対策事業	自然環境保全課	外来生物についての普及啓発を行うとともに、県民やNPO法人、市町などの多様な主体による外来種の監視および駆除活動を支援し外来種の駆除を促進するとともに、新たな侵入種の早期防除を図る。			○			○												13	A	令和3年度は琵琶湖外来水生植物協議会の構成員やその他の県民や企業と共働した外来水生植物を駆除する活動を13件実施し、県の抱える課題について知ってもらうことができたため。	ボランティア等多様な主体によるオオバナミズキンバイの除去活動を10件以上行う。	コロナの蔓延により開催時期が度々変更となり、遠方からくる人は参加できないようにすることとなったため、1回の参加人数が減となった。		
38	水生生物調査用具の貸出	東近江環境事務所	水生生物調査を行う学校や地域団体等に、必要な用具（顕微鏡、網、バット、ザル等）を貸し出すことにより、体験できる機会を支援する。			○	○														86	A	コロナ禍の中でも当初想定していた参加人数を超える応募があった。	特になし	昨年度より事業の開催数が多く、増加した。	1	B

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8．SDGsとの関連																9．MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
32	緑のダムづくり啓発活動（ﾌｸﾛｳ先生の森・守塾）	依頼があれば、引き受けたため。	過去の5か年の実績平均が1箇所であった。	昨年度実績：1箇所							197	B	パワーポイントを用いた説明と模型を使った実演により森林の働きと治山事業の効果について、参加者に具体的なイメージを抱いていただいたため。	過去の5か年の実績平均が2.8回であった。	昨年度実績：2回					○									○				○		○	○		○							
33	野生鳥獣保護対策事業（愛鳥モデル校愛鳥講演会）										165	A	愛鳥モデル校6校のうち5校で講演会を実施した。	市町の推薦により県が指定する愛鳥モデル校で愛鳥講演会を実施する。	愛鳥モデル校の児童数の減少 （参考）R2　175名→R3　165名				○										○					○											
34	鳥獣保護思想の普及啓発（愛鳥週間ポスターコンクールの実施）										229	A	例年より応募作品数が多かったため。小学校1年～中学校3年までのほどんどの学年で応募点数10点を上回った。ただ、高校生からの応	過去5年（H28～R2）の応募作品数平均114点	増減理由は不明。募集時期は昨年度より1週間程度早かった。（参考）R2 170点→R3				○										○					○											
35	生物多様性しが戦略普及推進事業										101	A	2018年度の制度制定以来、様々な事業者に応募をいただいており、2021年度末には継続的な取組の実施も含めてこれまでの累計で101件を認証した。 今後、より一層生物多様性の取組を推進していくためのインセンティブを高めていく必要がある。	2050年度までの長期的な目標として累計500件を認証する（年間概ね15～16件）。	2021年度は、38件（新規8件、更新30件）を認証した。 継続的な取組を行っている事業者の更新の認証が多かった。											○			○				○											
36	ラムサールびわっこ大使事業										21	B	令和3年度びわっこ大使の人数＋交流会に参加したOBOGの人数。OBOGからの参加申し込みに対し会場の定員が少なく、お断りすることがあったため。	これまでにびわっこ大使を経験した人数が令和3年度時点で72名。案内を出し、参加希望者全員が出席できるようにする。	交流会の開催が、コロナがまん延している時期で、人数制限を厳しくしたため昨年度よりは少ない人数での実施となった。				○										○					○							○			
37	外来生物防除対策事業										13	A	令和３年度は琵琶湖外来水生植物協議会の構成員やその他の県民や企業と共働した外来水生植物を駆除する活動を13件実施し、県の抱える課題について知ってもらうことができたため。	ボランティア等多様な主体によるオオバナミズキンバイの除去活動を10件以上行う。	コロナの蔓延により開催時期が度々変更となり、遠方からくる人は参加できないようにすることとなったため、１回の参加人数が減となった。														○					○										
38	水生生物調査用具の貸出	用具の貸出について東近江環境保全ネットワークHP上で周知	特になし。																○										○				○	○	○	○	○	○				○		○	

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
39	流域活動促進支援事業	東近江環境事務所	東近江環境保全ネットワークの構成団体等との協働により、体験活動、交流活動を実施し、参加者が学びや気づきの機会をもつことで、環境保全を含めた活動を推進・支援			○	○														390	B	コロナ禍の中開催規模を縮小しているが、全てのイベントで支援ができたため。	特になし	昨年度よりイベントの開催数が多く、増加した。	2	C
40	流域活動促進支援事業	湖東環境事務所	環境フォーラム湖東（流域協議会）と協働し、地域における住民の環境意識の向上を図るため、湖東地域の環境保全団体等のネットワークを構築し、環境保全実践活動を推進する。 ・湖東地域環境シンポジウムの開催 ・交流会（えこサロン）の開催 ・自然観察会の開催 ・湖東の生き物調査の実施 ・情報交流誌の発行			○			○												―	B	コロナ禍にあって計画通りの活動ができなかった。	具体的な目標設定は行っていない。	参加者数：約50名		
41	水生生物調査用具の貸出	湖東環境事務所	水生生物観察会を行う団体等に必要な道具（バット、ザル、虫眼鏡、ピンセット等）を貸し出すことにより、体験できる機会を支援する。			○															―	C	コロナ禍で計画したイベントが開催できなかった。	具体的な目標設定は行っていない。	―		
42	琵琶湖講習	琵琶湖環境科学研究センター	依頼に応じて、琵琶湖の水環境や滋賀の持続可能な社会のあり方等の試験研究から得られた成果、知見を紹介する。			○	○		○												978	A	目標は設定していないが、昨年度よりも多かったため。		オンライン開催に柔軟に対応できたため。 （昨年度）537人	1	A
43	環境学習センター運営事業	琵琶湖博物館	環境学習をする拠点の1つとして県内の環境学習等を促進するため、インターネットを活用した情報提供、環境学習推進員による相談活用、参考図書等貸出などを行う。	○	○	○	○	○	○		C	令和3年度末で129人の環境学習指導者、通称「教えてくれる人」をセンター内で登録しているところだが、この「教えてくれる人」の指導レベルはかなりばらつきがあり、実際講師として紹介できるレベルの人は少なく、年間紹介件数も9件となっている。そのため、「教えてくれる人」のスキルアップは急務であると考えるが、「教えてくれる人」の学習範囲が多岐に及ぶため、現在のセンターはスキルアップを行える体制にない。						C	令和3年度末で180の環境学習プログラムを登録しているところだが、HP上でプログラムを公開し、センターを通さずマッチングする例もあるため、現状、活用件数を把握する方法がない。また、環境学習プログラムは「教えてくれる人」が実施する授業内容になるため、施策1にも書いた通り、「教えてくれる人」のスキルアップを行い、環境学習プログラム自体の質の向上を図る必要がある。			670	A	草津近鉄百貨店あかりスポットにおいて、環境学習啓発イベント「ヨシっていいね」を開催し、環境に関わってもらうきっかけづくりを行い、好評いただいた。	（目標数値なし）	令和3年度に初めて実施。（参加者数は、土日祝のみ集計）	60	B
44	教員研修受入れ	琵琶湖博物館	教員の身近な自然への興味関心を高めるとともに、より高度な博物館利用者を促すことを目的として、教職員への研修を実施する。	○			○	○		239	B	プランクトン観察実習や外来魚解剖を実施。本物に触れる研修をすることで、教員の興味関心を高めることができた。	例年とほぼ同数の研修を実施した。	今年度はフローフィングスクールの研修人数が増加した。昨年度185名													B

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
39	流域活動促進支援事業	コロナ禍の最中で参加対象者を限定している事業については情報提供していない。	事業の開催ごとに掲載する。	イベントの開催数は増加したが情報提供数は多くない。														○	○		○						○			○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
40	流域活動促進支援事業										―	B	概ね予定通りの実施。	具体的な目標設定は行っていない。	交流会の開催・交流誌の発行を実施。															○					○	○					○			○
41	水生生物調査用具の貸出																													○					○						○			○
42	琵琶湖講習	目標は設定していないが、昨年度よりも多かったため。		オンライン開催に柔軟に対応できたため。（昨年度）537人							978	A	目標は設定していないが、昨年度よりも多かったため。		オンライン開催に柔軟に対応できたため。（昨年度）537人						○			○		○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	環境学習センター運営事業	水環境を中心に、環境学習に関する様々な情報をホームページやSNSで発信することができた。	（目標数値なし）	（これまでの情報発信とは異なる手法でR3年度より実施したため、昨年度との比較はなし）	6	1	B	こどもエコクラブ事業において、令和3年度は学校などを中心に58団体に登録いただいているところだが、登録するクラブの活動成果の壁新聞・絵日記の展示する「淡海こどもエコクラブ活動交流会」では、6団体が参加するのみとなっている。交流会への参加団体数を増やすことが急務となっているが、学校からの参加は費用面、安全面の負担が大きく、なかなか交流会への参加に至らない。		淡海こどもエコクラブ活動交流会への参加団体数：10団体	670	A	草津近鉄百貨店あかりスポットにおいて、環境学習啓発イベント「ヨシっていいね」を開催し、環境に関わってもらうきっかけづくりを行い、好評いただいた。	（目標数値なし）	令和3年度に初めて実施。（参加者数は、土日祝のみ集計）															○											○		○
44	教員研修受入れ	プランクトン観察実習や外来魚解剖を実施。本物に触れる研修をすることで、教員の興味関心を高めることができた。	例年とほぼ同数の研修を実施した。	今年度はフローフィングスクールの研修人数が増加した。昨年度185名			B	プランクトン観察実習や外来魚解剖を実施。本物に触れる研修をすることで、教員の興味関心を高めることができた。	例年とほぼ同数の研修を実施した。	今年度はフローフィングスクールの研修人数が増加した。昨年度185名																					○											○			

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
45	体験学習・観察会・講座推進事業	琵琶湖博物館	子どもたちへの身近な自然や暮らしへの興味関心を高め、フィールドへ誘うことを目的として、来館する児童・生徒に対する体験学習や観察会・講座を実施するほか体験学習プログラムの開発を行う。		○	○		○								207	B	コロナ対策を徹底的に講じた上で、様々な工夫をしたことで6割以上のイベントを実施することができた。今後も学びあいの場や機会づくりの充実をはかるため、さらに工夫が必要である。	令和2年度と同程度を目標とした。	コロナによる事業中止（令和2年度：257人）	207	B	コロナ対策を徹底的に講じた上で、様々な工夫をしたことで6割以上のイベントを実施することができた。今後も学びあいの場や機会づくりの充実をはかるため、さらに工夫が必要である。	令和2年度と同程度を目標とした。	コロナによる事業中止（令和2年度：257人）		
46	夏休み下水道親子見学会	南部流域下水道事務所	親子で夏休み期間中に、浄化センターの見学や汚水の水質検査、微生物の観察、講義を通じて、下水の浄化の仕組み、正しい下水道の使い方に対する理解と関心を深めるとともに、自由研究のテーマを提供する			○			○													新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止したため。	－	－		
47	しがこども体験学校推進事業	子ども・青少年局	「地域が学校、住民が先生」という考えのもと、多くの大人が関わりながら、地域社会全体で青少年の体験学習・活動の機会と場を充実させる。本事業で提供する体験の中に環境に関する気づきの提供や知識の普及などを取り入れたプログラムがある。				○																			98	B
48	青年社会参加活動促進事業	子ども・青少年局	地域の実情に応じた活動を青年自らが企画・運営し、青年の地域活動、自主的な社会参加を図るために行う事業に対して補助を行う。	○		○				6	B	青年自身がびわ湖の自然について考える機会を継続して設定している。		R2年度10名参加							6	B	ヨシ刈りや学習会を通して、青年自身がびわ湖の自然について考える機会となった。		R2年度10名参加		
49	「世界農業遺産」プロジェクト推進事業	農政課	日本農業遺産「琵琶湖システム」（琵琶湖と共生する農林水産業）を題材に、地域の魅力を知り、未来の環境をよりよいものとするための行動をクラスメートや保護者とともに考えるための授業用教材を提供する（教育委員会と連携）。	○						13600	A	子どもたちの気づきについて肯定的な声をいただいており、教材内容のブラッシュアップおよび次年度以降の継続実施が重要。	教育委員会との連携により、「琵琶湖の日」の前に、県内全小学5年生用に教材を作成し配送。	（R3は実施初年度）													
50	自治振興交付金（たんぼのご体験事業）	食のブランド推進課	児童らが、農作物を「育て」、「収穫し」、「食べる」という一連の農業体験により農業への関心を高め、生命や食の大切さを学ぶ場を提供する。（対象経費に対して市町へ自治振興交付金を交付する。）			○															201校	B	令和3年度は201校（県内小学校222校の90.5%）で農業体験学習を実施し、うち76校で「ステップアップ事業」を実施（令和3年度計画申請段階）。	小学校の子どもたちが生命や食べ物の大切さを学ぶため、自ら田んぼや畑に入り、「育て」、「収穫し」、そして調理して「食べる」という一貫した農業体験学習を実施する。	令和2年度実施校数：201校		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
45	体験学習・観察会・講座推進事業						B	コロナ対策を徹底的に講じた上で、様々な工夫をしたことで6割以上のイベントを実施することができた。今後も学びあいの場や機会づくりの充実をはかるため、さらに工夫が必要である。	令和2年度と同程度を目標とした。	コロナによる事業中止（令和2年度：257人）																						○									○			
46	夏休み下水道親子見学会										－	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止したため。	－	－				○		○											○													
47	しがこども体験学校推進事業	体験プログラムの情報提供について、【自然】が92事業、【里山田んぼ】が6事業で、一昨年度の90事業とほぼ同等のため。		昨年度は、コロナウイルスのため、事業の中止や延期が多くあり、53事業であった。															○																									
48	青年社会参加活動促進事業																		○																									
49	「世界農業遺産」プロジェクト推進事業																○				○						○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
50	自治振興交付金（たんぼのこ体験事業）																													○				○	○			○				○		○	

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
51	魚のゆりかご水田推進プロジェクト事業	農村振興課	地域住民や一般住民の環境意識の向上、子どもたちの環境学習の場としての役割を有している、かつての水田と琵琶湖のつながりを復元する「魚のゆりかご水田プロジェクト」を推進するための支援を行う。 また、水田周辺の生きもの調査などを行い、水田のもつ多面的機能や「魚のゆりかご水田」の取組についての出前授業等を行う。			○															20	A	コープしがの地区委員のかたへ、魚のゆりかご水田を講義した。質問もあり、熱心に聞いていただいた。	特に目標は設定していない。			
52	琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語創造プロジェクト	農村振興課	「豊かな生きものを育む水田」の新規取組地区を対象とした研修会の開催や、組織のネットワーク化を進めることを通して、当該取組の拡大を図る。 また、小学生等を対象とした出前授業を実施し、取組への理解促進を図る。			○															305	A	小中学生が熱心に受講された。 岡山小学校 能登川北小学校 東山中学校	特に目標は設定していない。			
53	棚田地域の総合保全対策費	農村振興課	水源の涵養、生態系の保全、農村計画の保全など多様な役割を担う棚田を継続的に保全するため、地域住民と都市住民（ボランティア）との協働による棚田保全活動を支援する。 また、都市住民等を対象として、棚田保全について普及啓発を行う。			○			○												154	C	・県下9の地域において、都市住民を中心としたボランティアによる棚田地域の環境保全活動を実施しているが、コロナ禍のために活動を中止した地域があるなど、コロナ禍による開催回数の減少のため、参加者が減少し、目標達成とならなかった。		令和3年度実績 118人		
54	水産談話会	水産試験場	水産試験場の研究成果を漁業関係者や一般の方に紹介するため、発表会を開催する。			○	○														63	A	コロナ禍で、連日千人近くの県内陽性者が発生する中、webも活用することで、多数の参加者となった。	過去、この談話会は1日で、大会議室で行っていた。その収容人数から考え、50人を目標とした。	昨年度は72人。今年度よりコロナの発生状況が下火であった。	18	A
55	水産試験場一般公開(公開講座)	水産試験場	水産試験場の調査研究をはじめ、琵琶湖の魚貝類や漁業について、理解を深め、身近に感じてもらえるように、講義や魚の解剖、プランクトン観察等を行う。			○															88	A	講座後のアンケートの評判が概ねよく、親子で琵琶湖の魚や環境のことを話すきっかけができたとの感想が得られたこと。また、講師の職員としても一人で様々な講義をすることからスキルアップとなった。	集団での講座の頃は1日30組を目標としてきた。密を避ける目的から午前と午後に3組ずつ5日で開催することにより以前と変わらない30組を目標とした。	昨年度5日間開催、88人参加		
56	琵琶湖の魚と環境学習応援事業	水産試験場	県民の要望に応じて、水産試験場に来場してもらったり、または職員が出張して、琵琶湖の魚や水産試験場の研究を紹介し、琵琶湖の漁業や環境に対する理解を深める。			○															95	B	コロナ禍の影響で開催回数は大幅に減少したが、学習を求める依頼に応じた講演や見学を行えた。	目標予定回数は定めておらず、依頼があれば都度受け付けている。	昨年度6回開催、110人参加		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連															9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
51	魚のゆりかご水田推進プロジェクト事業																													○								○						
52	琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語創造プロジェクト																													○								○						
53	棚田地域の総合保全対策費										154	C	・県下9の地域において、都市住民を中心としたボランティアによる棚田地域の環境保全活動を実施しているが、コロナ禍のために活動を中止した地域があるなど、コロナ禍による開催回数の減少のため、参加者が減少し、目標達成とならなかった。		令和3年度実績118人															○								○						
54	水産談話会	取り組んだ研究内容を発表出来た。	研究に携わる係員が、1課題/人発表することとしており、現在17名。	昨年度17課題。																									○					○	○			○	○	○	○	○	○
55	水産試験場一般公開(公開講座)																													○					○	○			○	○	○	○		
56	琵琶湖の魚と環境学習応援事業																													○					○	○			○	○	○	○		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
57	家棟川ビオトープ自然観察会	流域政策局	家棟川河口右岸に造成されたビオトープにおいて、「人と自然との新たなかかわり方」を探っていくため、自然観察会を地域住民、専門家、行政の協働で開催する。			○															15	C	水鳥の観察会等をとおして環境学習の場を提供できたが、コロナウイルス感染状況により開催回数の減少、天候等により参加者の減少。 参加率 R3：15／30＝50%	過去3カ年の平均実績（参加率＝参加人数/募集人数） R3：15／30＝50% 3カ年平均：84% R2：48／60＝80% R1：60／60＝100% H30：44／66＝73%	コロナウイルス感染状況により開催回数が2回から1回に減少。 開催日の天気が寒波予報、前日の降雪によるキャンセル。 昨年度実績 48人 （参加率） R2：48／60＝80%		
58	木の岡ビオトープ自然観察会	流域政策局	琵琶湖の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、ビオトープを活用した体験型の自然観察会を地域住民、地元企業、専門家、行政の協働で開催する。			○															21	C	植物観察会等をとおして環境学習の場を提供できたが、コロナウイルス感染状況により開催回数の減少。天候等により参加者の減少。. 参加率 R3：21／30＝70%	過去3カ年の平均実績（参加率＝参加人数/募集人数） R3：21／30＝70% 3カ年平均：103% R2：97／90＝108% R1：91／90＝101% H30：91／90＝101%	コロナウイルス感染状況により開催回数が3回から1回に減少。 開催日の天候不良のためのキャンセル等。 R2実績 97人 （参加率） R2：97／90＝108%		
59	浄水場見学	企業庁経営課	取水した水が飲み水になるまでの過程を学ぶことで、水の大切さを見つめ直し、水源である琵琶湖や河川の汚染防止に努めていただく。			○															61	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れを中止していたため。	過去の5か年の実績平均が3592人であった（コロナ禍前）	令和2年度も1年間受け入れを中止していたため、実績なし。		
60	水道出前講座	企業庁経営課	浄水場見学に来られない小学校の希望に応じて職員が教室に出向き、浄水場の仕組みや、取水した水が飲み水になるまでの過程を学ぶことで、水の大切さを見つめ直し、水源である琵琶湖や河川の汚染防止に努めていただく。			○																C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れを中止していたため。	過去の5か年の実績平均が257人であった（コロナ禍前）			
61	夏休み自由研究講座「へぇ～安全な水ってこうしてできるんだ」	企業庁浄水課	取水した水が飲み水になるまでの過程を学ぶ。浄水場見学と併せ沈でん・ろ過実験や水質検査をおこない浄水場の仕組みと水の大切さを学ぶ。			○																C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れを中止していたため。	過去の5か年の実績平均が38人であった（コロナ禍前）			
62	環境美化の日の取組	幼小中教育課・高校教育課特別支援教育課	ごみゼロの日,びわ湖の日、県下一斉清掃の日を基準日として、美化活動・啓発活動・環境学習等に取り組む。			○															－	B	市町立小中学校313校のうち189校（60.4%）の学校が、全ての「環境美化の日」に関連した取組を新型コロナウイルス感染症への対策をとり実施されているが、コロナ禍以前の状況にまでは至っていない。	県内全ての市町立小中学校を対象とした取組のため、全ての「環境美化の日」に関連した取組を行う学校数を目標としている。	学校としての取組を把握しており、参加者数は把握していないため関連指標は「－」としている。ただし、昨年度実績の13.4%より増加（回復）した。昨年度（R2）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ごみゼロの日（5月30日）は臨時休業期間と重なり、取組の機会が減少した。		

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
57	家棟川ビオトープ自然観察会																													○					○								○			
58	木の岡ビオトープ自然観察会																													○					○								○			
59	浄水場見学																		○		○																							○	
60	水道出前講座																		○		○																							○	
61	夏休み自由研究講座「へぇ～安全な水ってこうしてできるんだ」																		○		○																							○	
62	環境美化の日の取組																		○			○				○			○	○						○		○	○			○			

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
63	しが環境教育研究協議会	幼小中教育課・高校教育課・特別支援教育課	・環境立県として、持続可能な社会の実現に向けた環境教育プログラムの開発および実践を進める。 ・学校における環境教育充実と指導にあたる教員の指導力向上を図る。	○	○				○	105	A	3年悉皆研修の3年目として予定していた学校が、全て参加することができた。（112校）	県内全ての市町立小中学校を対象とした3年悉皆研修のため、毎年約1／3の学校数が目標となる。	昨年度（R2)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、協議会を中止した。	105	—	C	本来、協議会で協議したプログラム等について、各校で実践を進める予定であったが、コロナ対策により協議を行わず説明のみであったたため、実践についても声かけのみとなった。	協議会に参加した全ての学校において、協議したプログラム等の実践をお願いすることから、施策1の目標値と同じになる。	昨年度（R2)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、協議会を中止した。							
64	琵琶湖に学ぶ小学生交流航海事業	幼小中教育課	・琵琶湖の大切さについて滋賀県および近隣府県の児童が交流しながら学ぶことを目的とする。 ・学習船「うみのこ」に乗船し、直接琵琶湖に触れて水環境を共に考え学び合う活動を通して琵琶湖の保全及び再生といった環境問題への理解と関心を深め、持続可能な開発のための教育（ESD）を推進することを目的とする。		○	○			○								C	※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、交流航海は実施できず、令和3年度で事業は終期となる。				C	※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、交流航海は実施できず、令和3年度で事業は終期となる。					
65	「地域の力を学校へ」推進事業	生涯学習課	「しが学校支援センター」を設置し、地域の人々や企業・団体・NPO等が、それぞれの持つ豊富な知識や経験を生かして、環境学習など学校教育の場で活動できるしくみづくりを推進する。			○		○													–	B	しが学校支援センターを通して、連携授業の依頼があった学校を対象校として実施。	こちらからのアプローチではなく、原則依頼のあった学校への連携事業の実施により目標達成としている。	–		
66	子どもの体験活動の機会と場の充実	生涯学習課	家庭や地域の教育力の向上に向けて、子どもの体験活動の機会と場の充実を図る。自然体験活動を企画する機関・団体では、琵琶湖等での活動が展開されている。					○																			
67	学習情報提供システム整備事業	生涯学習課	学習情報提供システム「におねっと」による、インターネットでの学習情報の提供および学習相談を行う。				○																			197	B
68	生涯学習推進事業	生涯学習課	生涯学習に関する情報を県民に一元的に提供する「しが生涯学習スクエア」を運営する。また、生涯学習に関する情報収集・提供・相談および協働のコーディネートを行う。			○	○														–	B	「地域で学ぼう『出前講座』」に登録している講座について、環境学習に関する講座の登録団体と依頼者の仲介を行った。	環境学習において、出前講座等の仲介をし、環境に関わっての学びの講座を案内することにより、目標達成としている。	–	197	B

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連															9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
63	しが環境教育研究協議会										20	A	今年度のエコ・スクールの登録数が20校であったため。	協議会において、エコ・スクールの実践発表等を行っており、毎年のエコ・スクールの登録数を指標に設定した。数値は、過去の最大値が21校であることから、20校を目標値に設定した。	昨年度（R2）の登録数（認定数）は18校であり、今年度（R3）は2校増であった。				○		○						○		○	○								○			○	○		
64	琵琶湖に学ぶ小学生交流航海事業											C	※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、交流航海は実施できず、令和3年度で事業は終期となる。						○		○								○																
65	「地域の力を学校へ」推進事業				37		B	しが学校支援センターを通して、連携授業の依頼があった学校を対象校として実施。	こちらからのアプローチではなく、原則依頼のあった学校への連携事業の実施により目標達成としている。	―									○		○	○		○		○	○	○	○	○									○		○			
66	子どもの体験活動の機会と場の充実				―	1	B	「しがこども体験活動実践交流会」で、各市町、各団体等の指導者に集まっていただき、事例発表や情報交換ができた。	講演や意見交換等を通して、青少年の体験活動の充実や活性化を図ることで目的達成としている。										○																									○
67	学習情報提供システム整備事業	当課ホームページ「におねっと」上で、各種団体が行う「自然・環境」分野についての講座情報を提供することができた。	「自然・環境」分野において、講座等の学習機会を案内し、学習講座において学びの機会を提供することで目標達成としている。	コロナ禍でも工夫して「自然・環境」分野の講座開催が増えたため 昨年度実績192件															○																									○
68	生涯学習推進事業	当課ホームページ「におねっと」上で、各種団体が行う「自然・環境」分野についての講座情報を提供することができた。	「自然・環境」分野において、講座等の学習機会を案内し、学習講座において学びの機会を提供することで目標達成としている。	コロナ禍でも工夫して「自然・環境」分野の講座開催が増えたため 昨年度実績192件															○																									○

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	所属名	事業内容	1．県の施策の体系（6つの柱）別分類						2．県の施策の体系（6つの柱）別の関連指標による評価																	
				施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策1（人材育成および活用）					施策2（環境学習プログラムの整備および活用）						施策3（場や機会づくり）					施策4（情報の	
				人材育成および活用	環境学習プログラムの整備および活用	場や機会づくり	情報の提供	連携・協力のしくみづくり	取組への気運を高める普及啓発	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】プログラム数	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】情報掲載数	目標達成度
69	女性団体活動推進事業	生涯学習課	女性や地域に関わる様々な現代的な学習課題に対する学習機会の充実のために研修事業等に補助する。			○		○													－	B	コロナ禍の中でも工夫して、年間に複数回環境問題についての学びの場を持たれた。	環境問題等についての学びの機会を定期的にもつことで目標達成としている。	－		
70	初任者研修［高等学校］	総合教育センター	高等学校における環境教育のあり方を学ぶとともに、受講者自身が滋賀の自然や地域と共生するとはどのようなことかを考える機会とする。	○						58	B	教員自身の環境問題への関心の高まりだけでなく、自ら環境学習を推進し、教科横断的な視点で環境学習を考える機会とできたため。	第３期滋賀県教育振興基本計画において、環境教育の推進として教員研修があげられている。	感染症対策により、昨年度実施せず。														
71	びわ湖フローティングスクール事業	びわ湖フローティングスクール	学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開し、環境に主体的にかかわる力を育む。		○	○	○	○							101	13559	A	フローティングスクールはよかったかという質問に対し、教師は96.8%、児童は95.3%と高い満足度であった。	航海終了後に、教師には実施状況報告書、児童には意識調査にてアンケートを全航海実施している。	R2年度乗船児童13，747名	13559	A	琵琶湖の新たな問題を考える学習プログラムを構築し、琵琶湖の現状と課題や人々の努力に気づく教材を提示した。	航海終了後に、教師には実施状況報告書、児童には意識調査にてアンケートを全航海実施している。	R2年度乗船児童13，747名	10	A

令和3年度環境学習関連事業における評価結果について

資料2

番号	事業名	提供）			施策5（連携・協力のしくみづくり）						施策6（取組への気運を高める普及啓発）					8. SDGsとの関連																9. MLGsとの関連												
		その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】登録団体数	【関連指標】実施回数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	【関連指標】参加者数	目標達成度	その理由（成果や課題など）	目標設定の考え方	増減理由・昨年度実績	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
69	女性団体活動推進事業				―	―	B	協力して環境にやさしい石鹸を作り販売したり、環境問題についての広報紙を作成・配布したりすることができた。	環境問題解決のために他団体等とも連携協力して行動することをもって目標達成とする。										○	○		○												○														
70	初任者研修［高等学校］															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
71	びわ湖フローティングスクール事業	R3年度HPアクセス数　75,013件	・県内小学校での学習で利用 ・保護者をはじめとする県民への事業周知	R2年度HPアクセス数　71,049件	80	269	A	出前授業として1日航海であっても琵琶湖学習の機会を希望する小学校に提供できた。	航海終了後に、教師には実施状況報告書、児童には意識調査にてアンケートを全航海実施している。	R2実績のべ50校138授業											○							○	○	○			○	○	○	○			○	○	○			○	○	○	